

「投機マネーの規制は可能」

日 時 : 2008年7月26日(土) 午後1時30分~4時30分

会 場 : 新宿家庭クラブ会館

(JR 新宿駅南口徒歩8) 渋谷区代々木3-20-6 TEL 03-3370-6322)

集会名 : 畜産・大パニック阻止学習会

テーマ ○ 畜産・酪農生産者からの報告

○ 「穀物先物市場への投機禁止は可能だ！」

講師 : 中央大学 名誉教授 今宮謙二

「投機マネー」等著書多数、国際金融と通貨のスペシャリスト

はじめに

洞爺湖サミットの無力

一、三重苦の世界経済

1、景気後退・金融混乱・物価高騰

2、三重苦をもたらしたのは投機マネー

二、最近の新しい特徴 — 「ファンド資本主義」の限界—

1、巨額なリスクに対応できない資本主義

そのあらわれ—サブプライム危機

危機をもたらしたもの—企業破産・金融弱体化・市場混乱・モラル低下

2、新しい特徴—金融危機でも投機マネー縮小せず

その原因 世界的低金利による過剰マネーの存在

多様な投機商品の存在

新しい特徴の結果、投機マネーが金融市場から商品市場へ

原油・金・穀物価格などの高騰

物価高騰による国民生活破壊

三、投機マネー規制についての歴史的教訓—1929年大恐慌—

1、アメリカのニューディール政策

1933年の銀行法の内容

証券と銀行兼務分離、銀行兼務の監督強化

1934年の証券取引法

証券会社の規制強化

2、ペコラ委員会の役割—国民の怒りを引出す

四、投機マネー規制は可能だ

1、具体的な対策

投機助長の融資規制・投機利益の課税・市場の透明化

タックスヘイブン規制・トービン税、穀物・原油などの金融商品化規制

為替管理強化

2、国際協力の可能性

3、規制が可能な根拠

投機取引のもろさ、社会不安の激化、

投機マネー反対の世界市民抗議のたかまり

講演概要

「穀物先物市場への投機禁止は可能だ！」のテーマで今宮謙二先生が講演されました。

「世界の三重苦—景気後退・金融混乱・物価高騰—をもたらした犯人は投機マネーだ。

投機マネーが世界を大混乱させた出来事は3回ある。

1回目が1929年の世界大恐慌、

2回目は1974～75年にかけてのスタグフレーション(G7サミット第1回が'75年に開催された)、
今回は3回目で巨額なリスクに対応できない市場原理至上主義の矛盾を露呈した。

サブプライム危機がそのあらわれで企業破綻・金融の弱体化・市場混乱・モラル低下をもたらした。
その背景には世界的低金利による過剰マネーと多様な金融商品の存在があり、"金融危機でも投機
マネーが縮小せず"と言う新しい特徴が出現した。

その結果投機マネーが金融市場から商品市場へ進出して、US コーンの価格が実需ベース価格の
ほぼ2倍になっている(2008通商白書)といった事態が頻繁に起こっている。投機マネーを規制
する実効策は投機助長の融資規制、投機利益の課税、市場の透明化、タックスヘイブン規制、ト
ービン税、穀物・原油などの金融商品化規制、為替管理強化を国際協力で実施すれば効果が現出す
る。

借金依存で儲け追求むき出しの市場参入という投機資金の決定的もろさと社会不安の激化が世界
中で投機マネー反対の市民世論を高揚させている。そのうねりが投機規制を実施させる最大の
根拠となる。

1932年の大恐慌直後に国民の怒りを引き出して政府に"ニューディール政策"を採用させた米国
ペコラ委員会の教訓を活かし、既に仏、独の政府が動き出し、ベルギーでは投機規正法が可決さ
れ、英国も傾いていてEU全体に波及しつつある。日本でも、畜産大パニック阻止の呼びかけ文
のように生産者と消費者が一体となって投機規制を要求する国民運動が政府を動かす原動力とな
る。